

1958年度 会員研究動向

村落社会研究会事務局  
豊橋市町畑町 愛知大学内

注 1. 現在の研究課題  
2. 本年度の研究計画  
3. 1)に関連のある既刊の著書、論文

✓「親分子分」(「現大倫理」6 筑摩書  
房 1958 6)

A

○安孫子麟(東北大学農学研究所)

○有賀喜左衛門(慶応義塾大学)

1. 氏神の祭祀組織と村落構造(天皇制政治  
構造の基盤としての)

2. (イ) 諏訪神社と村落構造との関係を究め  
るため、長野県諏訪郡旧今井村、真志野村  
等の調査を計画。

(ロ) 「南部二戸郡石神村の大家族制度と  
名子制度」の再版をするので、昭和10年  
以後の変化を附加するため補足調査を行う

1958

✓3. 「大家族制の崩壊以後(石神)」(「信  
濃」10の5 信濃史学会 1958 5)

1. 日本地主制の研究

2. 水稲単作農業に関する共同研究は本年度  
一心とりまとめ刊行の予定。私自身はこう  
した単作地帯の大地主制と江戸時代につい  
てみた商品作物地帯の地主制との段階的把  
握を通して、日本地主制の研究視点をはっ  
きりさせた上で、さらに体系的な研究に入  
りたい。地主制の研究とは、日本の近代化  
過程における土地所有と資本の問題として  
考えているので、いずれは資本主義発達史  
に入るつもり。

3 「江戸中期における商品流通をめぐる対抗」(「経済学」東北大学 1954)

「幕末における地主制成立の前提」(「明治維新と地主制」岩波書店 1956)

「明治期における地主経営の展開」(「農学研究所彙報」東北大学 1955)

「大正期における地主経営の構造(上)」(「同前」1956)

「同前(下)」(「同前」1957)

「水稲単作地帯における地主制の矛盾と中小地主の動向」(「同前」1958)

○愛甲勝矢(農林省農業総合研究所)

1. 経済進歩と農業人口

2 (イ) 労働力の産業別配分の法則化と農業人口—Colin Clark の学説—

(ロ) 職業転換の一般法則と農業人口

—John A. Hobson の学説—

(ハ) 経済進歩と農業人口—緒論—

3 「経済の進歩と職業の配分」(「農業総合研究」10の1 1956 1)

「経済進歩の諸条件について」(「同前」10の4 1956 10)

「食糧問題」(「現代世界地理学全集」

1 河出書房 1957 1)

「熱帯アフリカの農業開発」(のびゆく農業叢書№26 農林水産業生産性向上会議 1957 10)

「経済進歩論の背景」(「農業総合研究」11の4 1957 10)

0

○近沢敏一(山口大学文理学部)

1. 農村家族の構造

2. 1の主題により、瀬戸内海の平群島で調査を行う。

3. 「主婦を中心とした酪農村落の実態調査」(山口女子短期大学紀要11 本年度刊行予定)

E

○江馬成也(東北大学教育学部)

1. 契約講について—年序組織と村落構造との関連について—

2. 東北村落における年序組織、とくに契約講とよばれる集団の様態を観察、その村落構造との関連面を考察する。

3. 「契約講について—三陸沿岸南部小漁村の事例を通じて—」(「文化」22の4 東北大学文学会 1958 7)

三九八

○藤本三千人(東北大学教育学部)

1. 漁業形態と村落構造—特に沿岸小漁村とノリ・カキ養殖漁村—
2. 沿岸小漁村における漁家階層構成について  
 牡鹿半島栗浜小漁地帯5部落の比較調査
3. 「沿岸小漁村における漁業形態の変遷と村落構造—牡鹿半島五部落の事例—」(「東北大学教育学部研究年報」6 1958 3)  
 「牡鹿半島における沿岸小漁村のモノグラフ—宮城県牡鹿郡女川町横浦の事例—」(「社会学評論」32 1958 8)

○布施鉄治(北海道大学文学部)

1. (イ) 都市における社会構造と家族について  
 (ロ) 村落共同体と「家」について
2. (イ) 都市における親族のネットワークに関する研究  
 (ロ) 北海道のムラと「家」に関する研究
3. 「現代日本都市家族における二つの〔類型〕と都市の近代化」(「社会学評論」31 1958 5)

○蒲生正男(明治大学)

1. 親族の構造と機能
2. 伊豆青カ島の親族構造
3. 「喜界島におけるハロウザの一考察」

(「人類科学」IX 1957 3)

「喜界島の村落構造とハロウザ」(「同前」X 1958 2)

「親族」(「日本民俗学大系」3 平凡社 1958 6)

○後藤和夫(愛知学芸大学)

1. 農民層の分解と村落構造
2. (イ) 昨年にひきつづき、名古屋市の近郊村落を対象として、農民層の分解と農業村落の解体過程について、調査を続行  
 (ロ) 愛知県碧海郡高岡町において、村落構造の展開と在村労働者組織とその運動について調査を行う(ただし本年は、初年度として、基礎的な部分のみ。)
3. 「給与者同僚会の成立とその条件」(神谷力と共同)(「村研年報」2 1955)  
 「愛知の村落」(「村研年報」4 1958)

11

○蓮見音彦(東京大学大学院)

1. 日本農村における村落構造
2. 近代の日本の農村で部落が果たしてきた機能の歴史的な変化を追求したい。今春鹿儿岛県の部落団体の調査に参加、夏に

は新潟県の農民運動の村へ調査にゆく予定。

それらを通じ、行政運営の上に、また農民運動の場合に部落がはたしている機能を考  
えてみたい。また新潟県十日町近傍の農村  
調査にも参加。

3 「村落の歴史的発展」(「講座社会学」

4 1957.11)

「近代日本における村落構造の展開過程

」(河村望と共同)(「思想」1958

5~6)

○原 宏(福岡県立折尾高校)

1 兼業農家の社会学的研究

2 (イ) 8月初中旬、九州漁村の社会学的研究(共同研究)の福岡県宗像郡大島の調査

に参加

(ロ) 8月中下旬 対馬村落の調査(共同

)主として村落共同体の分析

(ハ) 筑前、豊前の境界地域の調査

3 「兼業農家アプローチの試み」(「社会学評論」27・28 1957)

「兼業農家の家族構造」(「村研年報」

4 1957 10)

「アメリカにおけるPart-time

farmer について」(「折尾高校紀要

」1 1957 3)

「対馬村落社会構造の諸側面(その1)」

(「同前」2 1958 3)

I

○伊藤 章(農林省農業技術研究所)

1 農業機械化の農業経済、農村社会に及ぼ

す影響

2 上記テーマの他、農業総研「日本農業の

全貌」第5巻に「村落」執筆予定。

○飯塚博久

1 農民のパーソナリティ形成

2 パーソナリティ形成を支えるものとして

歴史的要因、特に各時代の農業政策を調べ

ている。

K

○喜多野清一(大阪大学文学部)

1 日本村落と同族

2 (イ) 2, 3の「同族」及び「日本村落」

に関する論文執筆予定

(ロ) 宇羽町の町村合併問題の調査完了の

予定

√3 「同族の相互扶助」(「家族問題と家族

法講座」酒井書店 1958 3)

「The Lineage Group」

(Memories of American

Anthropological Association)

一九六

の日本特集の1 1958年7)

○北川隆吉(法政大学社会学部)

1. 労働・労働者・労働組合の問題
2. (イ) 5月新潟県十日町市調査に参加、(村落の構造と賃労働の生成過程について)  
(ロ) 夏から秋へ、労働者の状態、労働力の変化などについて、2, 3の調査に参加

○小林 茂(国際基督教大学農村厚生研究所)

1. (イ) 農民分解(現段階における)  
(ロ) 農村における相続制
2. 「近郊農村における農民層の分化分解」に関し、東京近郊の農村を調査の予定
3. 「現段階におけるわが国農民の兼業化傾向に関する実証的研究」(「農村研究」7 1957 1)  
「日本農民分解の現段階的特質と土地移動」(「農村研究」8 1957 7)  
「農家経済と相続制」(「農村厚生研究所紀要」2 1958 8)

○木下 彰(東北大学経済学部)

1. (イ) 水田農業の生産力構造に関する基本問題  
(ロ) 山村経済の問題
2. (イ) 「北上総合開発の展望に関する共同研究」へ参加、岩手山麓及び北上川下流村落の分析分担  
(ロ) 「民有林業労働力需要構造の研究」

(林野庁委託)岩手県名子地帯2カ町村の実証的研究

- (イ) 「国有林業と牧野利用との関係に関する研究」(森林資源総合対策協議会委託)秋田県田沢湖町、岩手県葛巻町の実態分析
- (ロ) 「農村過剰人口と経済対策」(農村人口問題研究会共同研究の分担課題)

✓3 (イ) 「千町歩地主の成立と土地改良事業」(「農業水利構造に対する農地改革の影響に関する研究」三) 東北大学経済学部農業経済学研究室刊 1958 3)

- (ロ) 「東北地方を中心とする薪炭生産開発史」(林業発達史調査会刊 1958 4)  
(イ) 「木炭流通機構の実態と分析」(林野庁調査課刊 1959 6)

M

○森村 勝

1. 経済社会学, アジア経済
2. (イ) 経済体制, 技術論, 分業論  
(ロ) 後進国(とくにアジア)の開発問題  
(イ) 日本の伝統的諸工業の歴史と民俗
3. 「世界経済の地域化動向」(「経済分析」1958 1)  
「第2次5カ年計画下のインド経済」

八一九五

(産業動向資料 1958 2)

「鉱山の歴史と民俗」(「鉱山文化」昨年より連載中)

○村武精一(東京都立大学)

1. (イ) アフリカ原住民社会の政治組織および村落共同体

(ロ) 日本村落—とくに非同族制村落—における家族・親族・婚姻・年齢階制をめぐって

(ハ) 日本村落における漁業組織をめぐって

2. (イ) アフリカ黒人社会における村落類型

を、とくに、土地所有、親族構造や Line age age-grade system 婚姻と居住規制などとの関連において考察

(ロ) 昨年の伊豆諸島の調査に続き、八丈島・小島・青カ島(ここは蒲生・郷田氏)における家族・婚姻・相続および特殊舎屋習俗の諸問題を追求する。

3. 「西アフリカ農耕民における土地慣習について」(「愛知大学文学論叢」13 1957 3)

「アフリカ諸種族の政治組織類型について—英国社会人類学系の諸研究をめぐる覚書—」(「社会人類学」2 1958

6)

「伊豆利島および新島の村落構造と習俗」

(「伊豆諸島文化財総合調査報告」未刊)

「漁業組織と村落構造」(「愛知大学総合郷土研究所紀要」2 1955 12)

○松原治郎(東京大学文学部)

1. 日本における村落共同体の存在形態

2. (イ) 一昨年来の数カ村の調査の補充と報告の作成

(ロ) 昨年2カ村の政治意識調査による「最近における農民の意識」(日本社会調査会)というパンフレット編の報告をかいたが、今年も農村と漁村につき類似のものを実施

○森岡清美(東京教育大学)

1. 真宗寺院と「家」制度

2. 岐阜県白川郷、滋賀県湖北地帯、石川県鳳至郡にて、真宗寺院の社会的存在形態を調査分析したい。

3. 「重層的寺檀関係」(「社会と伝承」

2の1 1958 1)

「真宗寺院の相続制度」(「同前」2の

3 近刊)

○松本安一

1. 民有林業の成立過程

2. (イ) 青森林業の調査

(ロ) 信州の調査

3. 「Ohme Forestry Region

and its Regional Economy」

一九四〇

(「国際地理学会議(IGU)プロシーディングス」 今年中)

「近世黒沢山の入会紛争」(「多摩郷土研究」)

N

○西川善介(徳川林政史研究所)

1. 林野の官民有区分
2. (イ) 秋田・宮崎の部分木実態調査  
(ロ) 埼玉・奈良・京都の民有林の実態調査
3. 「林野所有の形成と村の構造」(「御茶の水書房」 1957 10)

○中野 卓(東京教育大学)

1. (イ) 北陸の定置網漁村の組織とその歴史の変遷(北大香村)  
(ロ) 中小企業の家と家連合
2. (イ) 北大香村調査の継続  
(ロ) 岡山県新池部における機械化の共同調査(岡田・森岡氏と)
3. 「本家と分家」(「郷土研究講座」 3 1958 1)

「日本社会要論」(松島氏と共著 東大出版会 1958 5)

「北大香諸村の懸網とその変遷」(東京教育大学文学部紀要社会科学論集 6

1957)

「家族と親族」(「講座社会学」 4)

○長井政太郎(山形大学教育学部)

1. 集落形態の発達過程の研究
2. (イ) 東北地方における山村の歴史地理学的研究  
(ロ) 宗教集落の成立とその社会経済史的

研究

3. 「散村の発達、特に鬼面川扇状地の場合」(「山形大学紀要」 1957 3)

「置賜地方豪族集落」(「山形県文化財調査報告書」 1956)

「檀午盆地の集落」(「人文地理」

1956)

「東北の集落」(古今書院 1956

10)

「Die Entwicklung der Siedlungsformen, Besonders im Nordesten Japan」

(Geographische Rundschau

1957 1)

「東北地方における郷土集落について」

(「地理学評論」29の11)

○中村正夫(熊本大学教育学部)

1. (イ) 村落構造とその変動(対馬・天草を主なフィールドとして)

(ロ) 町村合併の社会学的研究

2 (1) 対馬村落関係資料整理

(2) 町村合併関係資料分析

3 「対馬村落の研究 (2) -ソシ考-」

(九州大学文化史研究 1947 9)

○中田 実(名古屋大学文学部)

1 村落共同体の崩壊過程-兼業を手がかりとして

2 現在名大精神科の“The Relationship of Cultural Patterns and Personality”という

Interdisciplinary research

の Sociology group に参加して

都市及び農山漁村の調査を行っている。村

落及びその家族を、内部的、外部的な統制

Control の面で-各集団内の役割の分

担を手がかりとして-とらえてみたい。

○中島龍太郎(大阪市立大学文学部)

1 村落社会体制の理論

2 村落共同体論, 同族理論, 自然村論等を  
検討し, わが国の村落構造と結合性につい

て理論的考察を加えたい。

3 「産業開発隊の実態, 宮崎県の部」(産  
業開発青年協会 1957 3)

「農家人口の配置規制」(「村研年報IV  
」時潮社 1957 10)

○内藤莞爾(九州大学文学部)

1 社会学理論ことにSocial

Stratification

2 魚村の労働組織(総合研究)

農村における派閥(総合研究)

○二宮哲雄(高知短期大学)

1 日本農村社会構造の分析; 地方自治体の  
研究

2 日本農村社会の歴史的発展過程

3 「高知県の社会」(高知市民図書館  
1958 4)

「農村部落の構造分析」(部落問題研究  
所 1958 6)

「地方自治体の理論と実態-高知県庁の  
場合-」(高知県自治行政研究推進委員会  
1958 3)

✓ 「地方自治体の機構, 人間関係, 精神の  
実態-高知県庁の場合-」(「社会科学論  
集」 1958 4)

0

○小川 徹(法政大学文学部)

1 集落地理学を通じて社会地理学へ

2 上記の線による農村調査を一, 二計画中

3 「村の諸類型」(「民族学大系」 3

(1) 平凡社 1958)

A. ドマンジョン「農村集落」(in

Geographie Universelle

【一九二】

1947. France : Economique  
et humaine (2) の翻訳(「法政大  
学文学部紀要4 地理学編 (1) 近刊)

○大山彦一(鹿児島大学)

1 奄美大島, 与論島の社会体系(biline  
alism) の形成-「マキの研究」の一部

2 奄美大島, 与論島の社会体系の形成を現  
地調査によって確証する予定。特にその  
Kinship における bilinealism  
を追求する。族産, 家屋の形成を追求する  
従来, 此島の祭-シンガーを研究してきた  
が, その「シンガの社会的基礎」を人間関  
係から財産, 労働の関係へ追求する。この  
ことは, この島の村落社会の構造を明らか  
にする事となる。

従来, 「種子島マキの研究」をはじめと  
して, 全国的視野において「マキの研究」  
を行ってきたが, 最近では奄美大島に焦点  
をしぼり, 南西諸島の諸事例を参照しつつ  
与論島に重点をおいている。

3 「中国人の家族制度の研究」(関書院  
1952 9)

「種子島マキの研究」(「鹿大・文科報  
告」1 1952 3)

「種子島マキの構造と変動」(「高田先  
生古稀記念論文集」1954 3)

「木子相続から長子相続へ」(「鹿大・  
文科報告」2 1953 3)

「東北地方マキの研究」(「鹿大・社会  
科報告」2 1955 3)

「奄美大島の村落社会」(「鹿大・南方  
産業科学研究所報告」2 1956 2)

「シンガと其社会的基礎」(「鹿大・社  
会科報告」3 1956 8)

「ノロと其社会的基礎」(「西部社会学  
会・学会通信」4 1956 5)

「訪問婚-トカラ諸島・因之島-」(「鹿  
大・社会科報告」6 1957 3)

「戦後日本農村家族」(「鹿大・同前」  
8 1957 3)

8

○鈴木栄太郎

- 1 日本の家族
- 2 病後静養中であまり勉強できません。

○園田恭一(東京大学)

- 1 共同体と日本農村社会
- 2 上記のテーマについて修士論文をまとめ  
るつもり。

○鈴木 広(東北大学文学部)

- 1 共同体の社会学的研究

造」(「文化」 19の6 1955 11)

「旧大平村の町村合併事情」(「社会学研究」 11 1956 4)

「支配の構造—組織とカリスマ—」(「文化」 22の3 1958 5)

「近代社会におけるカリスマの問題」

(「社会学評論」 8の3 予定)

○桜井徳太郎(東京教育大学文学部)

1 村落共同体における経済外的強制の諸問題

2 割合に同質的な村落共同体を選び、そこでの社会生活を規制している諸法則の発見につとめる。そのため伊豆七島の青ヶ島、八丈島、小島などの離島を調査し、さらにそれとの関連の深い伊豆半島との比較調査を実施する。できうれば、同じ条件をもつ西南日本で一ヶ所、東北日本で一ヶ所ぐらいの臨地調査を行って、日本列島全体の広い視野からの結論を導きたい。

3 「日本民間信仰論」(雄山閣 1958 5)

「若者組の組織と機能」(地方史研究所 1958 1)

「昔ばなし—日本人の心のふるさと—」  
(「現代教養文庫」社会思想研究会出版部 1957 3)

11707

○桜田勝徳(農林省水産庁資料館)

2 共同体の存在形態に関する実証研究として

(イ) 岩手県大東町における部落構造の分析

(ロ) 岩手県釜石市・青森県八戸市・宮城県石巻市における都市共同体の研究

3 「漁村共同体の分析」(「社会学研究」

10 東北社会学研究会 1955 6)

「共同体の基礎問題」(「同前」 14 同上 1958 1)

「共同体の理論」(「文化」 22の3 東北大学文学会 1958 5)

○青野 正(福島大学)

1 支配の構造

(イ) 近代大衆社会との関連において

(ロ) 日本の村落との関連において

2 (イ) 宮城県石巻市における地域社会の変動過程。特に漁港としての衰退過程とそこに現われる支配関係の変化について

(ロ) 宮城県女川町の一地主漁業部落における民主主義の浸透度。特に部落的強制との関連において

3 「支配とその諸形態」(「社会学研究」

5 1952 5)

「地主漁村の部落構造」(「社会学研究」 10 1955 6)

「近代社会におけるピュロクラシイの構

1. 水産に関係する産業の発達を培った中小都市内の手工業地帯の社会史的な研究でも手がけたいと思っているが、それすらもいろいろな事情で何等なすところなく過している。

2. 「地域と社会」のうち「総説・村とは何か・村の構成」(「民族学大系第3巻 社会と民族(1)」 平凡社 1958 6)

「東京湾の海藻をめぐって」(「日本水産史」 角川書店 1957 11)

「現存漁船資料による日本の船の発達史への接近の試み」(「日本の民具」 同前 1958 1)

○斉藤兵市(北海道教育研究所)

1. 漁村共同体の研究

2. (イ) 漁村集落の成立と変遷

(ロ) 漁村集団の構造と機能

(ハ) 漁村共同体の概念規定

3. 「漁村生活史の研究」北海道漁村の事例研究(「社会学評論」 31 1958

5)

「道南漁村の構造と変せん」(北海道開発局道南開発調査資料 1958 3)

1. 北海道における大農場の研究(取まとめ)

○高倉又二(宮崎大学)

1. 農事研究実践集団と部落構造

2. 新自作農の社会的経済的行きなやみ、農民運動の不振等々こうした現下の農村をめぐる諸情勢、諸条件の何処にまたどのようにして新たなる発展のエネルギーを見出しうるか。そのための手だてはいかにあるべきかを問題意識として各種の農事研究実践集団の存在形態—その構造と機能—の分析に努めてきた。家・部落・行政村・各種制度関係諸機関のあり方がどのような十一の連関を示しているかを考察してきた。その総括に入るが今年の課題

3. 「農事研究集団の現況とその課題」(宮崎県農業会議資料 1957 6)

「農事研究集団と部落構造の考察」(同前 1958 3)

「村づくりにおける組織の問題(Ⅱ)」(宮崎県農業会議機関紙 14 19 1958 5)

○田野崎昭夫(中央大学)

1. 地域社会と資本主義

2. (イ) 漁民層の分解(新潟県糸魚川市浦本部落)

(ロ) 水田半作村の政治経済的展開(宮城県小牛田町北浦)

○高倉新一郎(北海道大学)

〇〇〇

U

○内山政昭(農業総合研究所)

1. 農民及び農民組織に関する研究
2. 本年秋ごろ中間発表できる予定

Y

○吉井藤重郎(大阪市立大学文学部)

1. 農村の社会変動と都市化
2. 大阪(都)市周辺(隣接)地区で地域社会の社会的統一性について分析し、それが都市化のメカニズムと如何に連関するかについて考察したい。

1958年9月下旬秋季調査計画分として実施予定(大阪府三島郡下)

夏季は大阪市における社会解体地域の総合研究に協力者として参加

3. 「都市化の農村的規定」(「人文研究」大阪市大文学会 1957 10)

○山岡栄市(島根大学文理学部)

1. 農村社会学 特に農村と漁村との比較研究
2. 農村と漁村とを比較しながら研究してきたが、このあたりで漁村社会学の体系的考察をしてみたい。それで少し広く全国各地の漁村を探訪し、今まで構想している理論

体系の検証をしてみたい。

3. 「大根島—その生態と課題—」(関書院 1956 2)

「隠岐島の村落構造」(「史泉」関西大学 1957 11)

「斐川村の村落構造」(「社会科学」3 島根大学紀要 1958 3)

「隠岐牧場に於ける共同放牧権と個人所有権との対抗—共同体規制の一考察—」

(「社会学評論」近刊)

○吉沢四郎(農林省林業試験場)

1. 山村の経済と社会構造の研究
2. (イ) 開拓地共同体の実態調査研究  
(ロ) 農家林業の実態調査研究
3. 「山村社会の相貌」(「山脈」7の2 前橋営林局 1956 2)  
「Social Accounting による山村経済の分析事例」(「経営部業務報告」(I) 林業試験場経営部 1957 5)  
「農家林業生産単位の経済分析」(「科学技術庁資源局資料」17 1958 4)

○山室周平(横浜国立大学)

1. 家族学説史の研究
2. 成立期を中心とする家族学説史
3. 「家族学説史の前史的吟味」(「社会学評論」6 1951)  
「家族学説成立の背景」(「山梨大学学

1188

芸学部研究報告」Ⅲ 1955)

「家族学説の成立期に関する問題点」

(「社会学評論」30 1958)

「家族発展系列理論の現段階」(「山梨  
大学学芸学部研究報告」Ⅰ 1951)

「核家族論の発展と西欧の現代家族社会  
学」(「思想」1958 2)

」(「同前」8-11 1957 12)

「近郊農村における階層構成と社会移動  
」(「農村人口問題研究」3 1954

10)

「大都市近郊の社会構造」(大阪市政研  
究所 1957 3)

○山田敏道(弘前大学文理学部)

1. 社会集団の研究 構造・機能の分析

2. 主として理論研究

社会変動の問題 社会体系論の変動理  
論を通じて

3. 「党派集団の理論」(「人文社会」12  
弘前大学人文社会学会紀要 1957 3)

○山本 登(大阪市立大学)

1. (イ) 未解放部落の研究

(ロ) 都市近郊農村の研究

2. 前年度の調査資料をまとめることに専念  
し、本年度としては特に調査計画なし。岡  
山県下及び高知県下の未解放部落調査及び  
和歌山県下の山村調査の終結

3. 「部落問題の社会学的研究」(和歌山県  
社会教育課 1954 1)

「未解放部落の家族」(「人文研究」

6-10 7-10 大阪市大 1955

10 1956 11)

「未解放部落をめぐる社会的緊張の測定

あ と が き

以上は、9月10日現在までに、事務局へ集  
まった本年度「研究動向」を整理集録したので  
す。紙面の都合から、部分的に報告者の文章を  
簡略化したもののあることを御諒承ください。  
整理の不手際で乱雑なものになったこと、刊行  
期日のおくれましたことをおわびします。(9)

二八七